

ウガンダでマールブルグ病が発生

2012年10月19日 ProMED 情報(New Vision)



ウガンダ保健省は、同国西部のカバレKabale県Kitumba副郡でのマールブルグ病の発生を公表し、注意を呼びかけています。10月19日、ウガンダウイルス研究所(UVRI)で実施された検査によると、3検体で陽性反応が出ました。この地区からの報告によると、10月4日以降、他に4名が死亡しています。死亡した患者はすべて、Kitumba副郡のKiyonjo区に住む同じ家族から発生しました。

マールブルグ病は、マールブルグウイルスの感染によって発病し、感染者の傷口や血液、唾液、嘔吐物、便、尿といった体液を通じて感染します。高熱により急に発症し、次いで、頭痛、吐血、関節痛や筋肉痛、目・鼻・歯ぐき・耳・肛門・皮膚等からの出血がおこってきます。非常に感染力の強い病気で、短期間で死亡します。

〔ProMED 調整者〕

この病気が最初に報告されたのは、1967年のドイツのマールブルグと旧ユーゴスラビアのベオグラードです。これらの発生は、ウガンダから輸入したアフリカミドリザルを使用した研究施設との関連がありました。以後、アンゴラ、コンゴ民主共和国、ケニア、南アフリカ、ウガンダで発生しています。ウガンダでのマールブルグ病の報告は2007年が最後ですが、今回の発生はエボラ出血熱が終息した直後におこっています。ワクチンや治療薬はありません。自然界の宿主は、コウモリやサルが疑われています。カバレ町は、首都カンパラから420km南西に位置しています。